

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600118		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホーム セント・ケア おおの(もみじ1番地)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町黒野190番地1		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoQd=2192600118-00&PrefQd=21&Ver=onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成25年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自施設は住宅街に立地しており、建物西側には、三水川が流れ、その川沿いには桜や菜の花等、四季折々の花や景色が広がり、入居者様の心を和ましてくれている。周辺にはなじみの喫茶店や商店街、スーパー、図書館等があり、暮らしの継続できる環境となっている。入居者様は大野町の方が多くみえ、ご家族様の面会も多い。またボランティアの方には、知り合いの方も多く、なじみの人との思いがけない再会・出会いの場となっている。

私たちの理念は“住み慣れた地域で、あなたらしく過ごせる自由で安心な暮らしをお手伝いします”と掲げ、住み慣れた地域で自分らしく過ごせるよう、徐々にであるが、喫茶店や買い物といった日常的な外出だけでなく、お祭りや花火等の地域の大きなイベントに外出して、地域住民の方と交流することに力を注いでいる。また、他事業所を併設していることで事業所間で連携し、施設内での全体行事も充実している。施設内での職員研修についても年間計画に沿い実施し、共に学び、成長し合える事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の表情が穏やかで、事業所の理念である「自由で安心な暮らし」が実践されているという印象を受けた。建物が新しく、住みやすい環境にある(風景がよく、住宅街にあって地域資源にも恵まれている)こと以上に職員の介護に対する意欲、資質の高さが理念の実現に寄与していると思われた。職員向けの託児所やフィットネススクラブの加入、各種親睦会の助成等福利厚生充実が職員の健康を維持し、意欲を高めている。さらに研修体制が整い、学びたいことを選択して研修に参加できる。また年2回の人事課と年1回の管理者評価の機会があり、介護技術の向上にも力が入れている。これらが相まって、より良い利用者サービスが実践され、利用者の「ここはいいところやよ」という発言に表されているように、利用者満足度の向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で理念を唱和している。またセント・ケアの理念をもとに自分たちが大切にしたいケア5ヶ条を項目別に作り、唱和している。一人一人が意見を出し合い作り上げた信条を手帳にし、同じ方向性に向かってケアの実践へとつなげている。	「敬愛」と「博愛」という法人の理念をもとに日々の実践の中から職員の話し合いで事業所独自の理念を作成し、それを毎日、朝礼で確認している。また倫理研修会を持ち、月ごとの重点内容を検討し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長様より、町内行事を紹介していただいている。(夏祭り、地域清掃、三水川観音参り等) またこちらの消防訓練に区長様に参加していただく、民生委員様に踊りのボランティアとして来て頂けている。	自治会に加入し、広報が届けられ、地域の情報を得るとともに、町内清掃や町内運動会等町内行事への参加を通して地域交流に努めている。区長、民生委員との交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みは十分ではなく、地域への貢献までとはいえないが、同法人で、地域の祭りにブースを設け、作品展示や小物の手作り体験コーナーを行う等、法人や自施設を知っていただく良い機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養と協働して2ヶ月に1度開催している。活動内容や行事、運営実態、事故報告、ホームでの様子等紹介している。出席者から頂ける貴重な意見は、施設でのサービスの質向上に役立ち、ご家族様の紹介でボランティアに来ていただいたり、セント・ケアシネマズとして映画レクを始めるきっかけとなった。	会議ではパワーポイントを使い、事業所の活動状況がわかりやすく説明されている。出席者から利用者に対しての質問や提案が活発に行われ、その結果より丁寧な情報提供が行われるようになったりする等サービスの改善に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター、揖斐広域連合、区長、民生委員の皆様に参加していただき連絡を密に取るようにしている	市町村担当者より事業所の利用相談や、介護相談員の資格取得のための協力依頼があったり、運営推進会議に参加していただき、事業所の活動状況を見ていただく等日常的に連携が行われている。	今後、市町村も巻き込んで地域の認知症についての専門家集団として、在宅介護を支える拠点として事業所機能のさらなる地域還元に向けた取り組みに期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をしている方はみえないが、ユニットの玄関が施錠してある為、なぜ扉を閉めることがいけないのかをユニット会議にて話し合い、安全面にも配慮して、入居者様が自宅のように安心して住めるよう玄関の開放にむけて取り組んでいる	なぜ拘束がいけないのかという根拠づけや拘束の内容(施錠、ベッド柵、手袋やスピーチロック等)といったテーマについて学習会がもたれ、実践につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、虐待防止の理解につなげている。「もし自分にされたら？」ということを常に考え、常に相手の立場に立ち入居者様のケアに当たるように心がけている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度施設内研修を行っているが、権利擁護についての理解はまだ十分できていない。外部研修や施設内研修をする事で知識を身につけていきたい。また、施設内研修においては外部講師を招き入れる等し、研修内容の充実を図っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様の話を聴くことを第一にし、不安や心配を与えないよう、ゆっくりと時間をかけて説明をすること心掛けている。分からないことがあれば、気軽に聞けるような雰囲気作りにも配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付について事務所に掲示し、事業所の前には意見箱を設置している。職員には、日々の関わりの中で伺ったことを気軽に書き、報告できるように「貴重な意見報告メモ」を作成している。些細な希望や要望に対しても対応する事でサービスの向上に努めている。	苦情は宝であるとの認識をもち、利用者や家族のなにげない言葉からも意見や要望を汲み取ろうとしている。例えば、請求書の表記を詳細に分かりやすくといった要望に対して真摯に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議、各委員会を行い、意見交換の場としている。また、管理者も法人での役職会議に参加し意見や助言を聞いている。会議の場だけではなく、日頃から管理者がスタッフに声をかけしやすい雰囲気作りに努めている。	年2回の人事考課が行われる他、年1回、管理者評価（現場の職員が管理者を評価する）が行われている。また仕事以外でも親睦会等を通して管理者、職員間の交流の機会があり、そこでの意見も受けとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年初めの自己目標管理シートに自分自身の目標や長所を活かすこと等書き、人事考課の際に面談を行い、評価及び指導、助言を行っている。また人事考課によるキャリアパス制度も導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場の経験年数に合わせ、1回/年外部での研修参加をしている。また、法人内でも年間計画に沿って研修を行い、共に学び、共に成長できる機会の場としている。新人職員にはプリセプターをつけ、安心して働ける体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の合同検討会や系列法人、法人内での全事業所合同検討会に参加している。他施設との情報交換や問題点が話し合える機会となり貴重な時間となっている為、今後も継続的に参加していきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前調査やサービス担当者会議で情報を収集し、本人様にとっての悩み、不安に耳を傾け想いを聞き取るようにしている。表情や態度、想い等から今、どんな支援が必要なのかを見極め、本人様に安心していただけるようなサービスの内容を検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回契約時にご家族様の話をじっくり聴くことで、ご家族様の背景、思い、要望に耳を傾けることを心掛けている。ご家族様と一緒に考え、何事にも誠実な対応をし、信頼関係が深まるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時に本人様やご家族様の現状や不安、要望をお聞きした上で本人様、ご家族様双方にとってよりよい支援を考えている。状況に応じて他事業所のサービスも紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る力を大切に、可能な限り自分の力が発揮できるよう言葉がけや支援、環境づくりに配慮している。～してあげるという目線ではなく、自立支援を基本に一緒に過ごし支えあう「人」としての関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に健康面や生活の様子等、お伝えして情報交換している。面会は本人様とご家族の大切な時間と考えている。また本人様のお誕生日は特別な日と位置づけ、要望をお聞きし、ご家族様との絆を深めて頂けるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様やご家族様からの情報を聞き取り記録へ記入し、情報の共有をしている。また、なじみの方がいつでも面会に来ていただけるように24時間の面会に対応している。また希望に応じて外出の支援やご家族様の施設での宿泊等行っている。	希望があれば家族が宿泊設備を利用できることや遅い時刻の面会が可能であることをわかりやすく明示する等し、家族や親族の面会や宿泊を支援している。また法事等自宅への外出に職員が送迎を行ったり、馴染みの理美容院やお店への買い物に同行する等の支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況や、その時のユニットの雰囲気配慮し、状況に応じて時には1対1の個別ケアも大切にしている。また、役割を持つことやレクリエーション・生活リハビリ等を通し関わりが深まるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養に3名異動、退所の方1名みえたが、お会いした時には声かけし、いつでも気軽に相談できることお伝えしている。法人内の異動においては、ユニット間での交流や施設内行事等で交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、暮らしの希望や意向を、伺ったり、話される言葉の中から感じとることを大切にしている。またサービス担当者会議にはご家族様に出席していただき、その希望や意向をケアプランに反映している。希望者には本人様にも出席していただくようしている。	サービス担当者会議にはときにキーパーソン以外の家族も参加し、きめ細かい意向把握に努めている。いつもと様子の違う利用者の言動から思いの変化を感じ取るよう心がけ対応している。家族主催の誕生会が施設内で行われたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に、入居前にアセスメントシートの記入を依頼をしている。また入居後も本人様に聞き取り、生活歴やなじみの生活習慣等、暮らしの情報の把握に努めている。また、ご家族様には面会時に情報を得ようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の暮らし方や聞き取りした内容をもとに、24時間シートを作成し、1人1人の生活リズムの把握や、その方の生活での好みや意向、自分でできることや支援が必要なこと等記入し、職員間で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはスタッフが常に意識できるようカルテに綴じてある。サービス担当者会議において、本人様やご家族様の要望をお聞きし、ケアプランを作成している。また、ユニット会議では現状の課題等スタッフの意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。ケアプランは担当者を決め月1回モニタリングしている。	サービス担当者会議だけでなくユニット会議においてもケアプランが検討され、必要に応じたケアの提供に努めている。利用者一人ひとりについて職員の担当制を敷くことで、責任を持って状況把握が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送り、ユニット会議録等で入居者様の情報を共有している。ケアプランに沿って入居者様の生活の中での気づき(表情、言葉、態度等)を記入し、ケアの向上につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じてどう対応していくべきかスタッフ間で話し合っている。決して一人で決めるのではなく、報告、連絡、相談を大切にし他職種とも連携をとりながら色々な方法でチャレンジしていく姿勢を大切にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様からの地域行事へのお誘いやボランティアの方も少しずつ増えてきている。ボランティアの来訪の際には地元の方も多く、入居者様に声をかけてくださり、入居者様の笑顔に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じ対応をしている。入居前のかかりつけ医がある場合は、情報提供をし受診を継続している。また、ホームの協力医療機関と連携している	在宅時のかかりつけ医を希望する利用者、入居後に協力医療機関をかかりつけ医にする利用者と様々であるが、希望に応じてどちらの場合でも対応している。他の医院を利用される場合、情報を提供し、また必要に応じ職員が付き添うことにより受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、不安な事や状態変化があれば、報告、連絡、相談を出来る協力体制にある。夜間も訪問看護ステーションと連携をとり安心な医療体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や、ソーシャルワーカーと連絡を取りながら早期退院を出来る様に情報交換に努めている。退院決定時には、病院関係者、本人様や家族様、施設ケアマネとサービス担当者会議を行い、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時の際には看取りに関する指針について説明している。重度化や終末期になられた場合はホームとしてできるケアを十分にご家族様や他職種とも話し合い、方針を共有していく。まだ事例としてはないが新人スタッフも多い為、研修や勉強会に参加し看取りについて意識向上や不安解消につなげて行く	利用者の健康状態が悪化した場合、連携する医療機関に移動したいという希望ばかりであったため看取りの経験はない。今後多様な希望が出てくることを想定し、看取りが行える体制を整えつつある。(学習会の開催、併設特養での看取り体験等)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師主催のもと、毎月行われる医療研修に参加し、緊急時の対応方法などを学び、知識や理解を深めている。緊急時マニュアルも作成し落ち着いて対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に準じ年に2回、避難訓練、通報訓練を実施している。災害時の応急処置に関する協定を結び地域との協力体制をとっている。消防署、区長様にも参加していただき協力体制をとっている	地域の役員の方々の理解と協力を得て、併設施設と協力し、夜間を想定した避難訓練も行っている。災害時に備え、水や食料等の備蓄もされている。耐震設計の施設のため、地域の緊急避難場所としての役割が果たせるのではないかと検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いや表情を汲みとり、目線を合わせて話しかけるように心がけている。居室には暖簾をかけたり、トイレ、浴室には使用しているかどうか分かりやすいように札を作成し配慮に努めている。	トイレ誘導時等、利用者に対する声かけは他の利用者に気づかれない様さりげなく行われている。排泄介助の時はバックを持ち、他者にわからないように配慮している。入浴はできるだけ同性介助とする等利用者の人格を尊重した細かい配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や消灯の時間、入浴の有無など本人様の思いを大切にしている。また、レクへの参加などは入居者様の希望を確認し、本人様の思いを尊重している。中には遠慮をして希望を言われない方もみえるので、声かけはするが強制はせず、さりげなく見守りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ生活していただいている。強制するのではなく入居者様の意見を尊重し、その日の体調に応じたペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などには鏡の前にて、髪をとかしていただいたり、顔を洗っていただいている。季節の変わり目にはご家族様や職員と一緒に居室内を整理整頓しながら衣類を整えている。外出前などは、お気に入りの服や身だしなみを整えられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えたメニューを提供しているがご飯とみそ汁はユニットで作り、副食は厨房から大皿でリビングまで運ばれ、入居者様と一緒に盛り付けをしている。片付けはリハビリをかねて食器を洗うことや拭くこと、テーブルを拭く等役割分担し片付けを一緒に行っている。また、職員も同じメニューやお弁当を同じ食卓で食べながら、コミュニケーションをとっている	嗜好調査のもと利用者一人ひとりの好みに合わせた食事が用意される。パン食を好まれる方にはパン食、納豆を食べられない人には他のものをとった配慮がされている。職員と共にテーブルを囲み会話を楽しみながらの食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、栄養バランスを考慮した献立を、その方の体調や好みに合わせて食事提供している。水分量は毎食時、入浴時、10時、15時と提供している。その他、散歩や外出後にも適宜声掛けしている。またその方に好みに合わせてお茶の温度や飲み物の持ち込み等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず、口腔ケアの声かけを行っている。介助が必要な方は職員が仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。必要な方は随時歯科医の診察、衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを使用し、入居者様の排泄パターンをつかむよう心掛けている。また、入居者様の表情や行動に気をつけながら、可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように努めている	尿取りハットを数種類用意し、尿量によって使い分けパンツ内での排尿の不快さを軽減を図っている。また紙パンツに比べ綿パンツの快適さを感じ取っていただけるよう、こまめなトイレ誘導をすることにより綿パンツへの変更ができないか検討している。また排泄チェック表を活用し、パターンを把握し、できるだけ排泄の自立に向けて努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはできるだけ薬を使用せずに排便コントロールができるようにと、便秘マッサージや体操、水分摂取、散歩をする等、個々にあった便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に添えるよう入浴時間や順番、声掛けするタイミングを考えている。また、入浴剤を入れ、色や香りで楽しんでいただけるよう入浴しやすい雰囲気作りの環境を整えている。入浴を拒否される方は、毎日声かけし気分の良い時に入らせていただいている	一番風呂に入りたい、就寝前に入りたいというような様々な希望があり、できるだけ希望に沿えるよう努力している。入浴を望まれない方にはその理由を探り、原因を取り除くよう配慮し、入浴意欲を喚起するよう検討、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で食事の後は、横になられるなど休息できる時間をその方の希望に合わせて行っている。安心して眠れるように、温度や照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は処方箋を見て作用、副作用の理解に努め症状の変化にも注意している。個々の状況に応じて服薬の介助をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方は家事を役割にしている方が多く食器拭きや洗濯たたみを進んで行っている。個々に応じた現有能力を最大限に生かし、楽しく生活を送っていただけるよう支援している。楽しみ作り（クッキング等）は頻度が少なく、課題がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外での外出行事に多くの入居者様が参加できるよう事前に計画を立てている。まだまだ日常的とまでいかないが、喫茶や買い物等少しずつ行っている。また本人様の希望を伺った際、ご家族様へ相談し、ご自宅や家族旅行等、家族の方との外出できるよう支援している。	事業所が住宅街にあるという強みを活かし、近くのスーパーや喫茶店への外出する機会がある。計画的な外出の他、季節や地域の行事に合わせた外出も行われている。地域の運動会に参加した折には地域の方が利用者の見守りに協力して下さったため、より多くの種目に参加できたことから、地域の一員として関係ができていたと感じた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出前にご家族様へ前もってお伝えし、金銭を持参し、入居者様が、自己にて好きな物を選び購入できるよう支援している。また入居者様の状態に合わせて支払い等の自己にて行えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をかけたいという時は、施設の電話を利用して頂き、電話をかけられる事もある。手紙を書かれる方もおられ、ポストへの投函は職員が代理で行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れる為、お花などを飾ったり、その季節に合った作品を作る等、居心地のよい空間づくりをしている。職員の行動や声の大きさにも配慮し、不快な刺激がない様努めている。また、天窓からさす自然の光もリビング内を明るくし居心地よい空間となっている	廊下、居間、食堂、浴室、トイレ等共用の場は十分なスペースがあり、採光、温度、音等、快適に保たれている。さらに壁面には利用者による作品が掲示され、懐かしのBGMが流れ、落ち着いた雰囲気を醸し出している。。	落ち着いた気分になれる居間である。そこに利用者の若い時代を彷彿とさせるような調度品等を配置すると、さらに居心地の良さや快適さが増すのではないかと考える。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を設けており、1人でゆっくりTVをみたり、気の合う方と過ごしていただいている。また、リビングにソファを設けて、くつろげる場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と話をし、自宅で使用していたなじみの家具や写真等を持ち込んでいただいている。中には仏壇をご持参されるなど、好きなものや使い慣れたものがあることで安心して過ごしていただけるよう支援している。	本人が持ち込まれた家具、写真等がバランスよく配置されている。日当たりが良いだけでなく窓からの風景も季節の移ろいが感じられる。出入り口には丈の長い暖簾がかけられ、プライバシーの保護にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居室・共同スペース・トイレなど必要に応じて使用できるように手すりを備えつけてある。ベット柵は、L字バーにするなど配慮し、入居者様それぞれの身体状況に合わせて対応し、安全面に配慮して支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600118		
法人名	社会福祉法人 浩仁会		
事業所名	グループホーム セント・ケア おおの(もみじ2番地)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町黒野190番地1		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192600118-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成25年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で理念を唱和している。またセント・ケアの理念をもとに自分たちが大切にしたいケア5ヶ条を項目別に作り、唱和している。一人一人が意見を出し合い作り上げた信条を手帳にし、同じ方向性に向かってケアの実践へとつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長様より、町内行事を紹介していただいている。(夏祭り、地域清掃、三水川観音参り等) またこちらの消防訓練に区長様に参加していただく、民生委員様に踊りのボランティアとして来て頂けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みは十分ではなく、地域への貢献までとはいえないが、同法人で、地域の祭りにブースを設け、作品展示や小物の手作り体験コーナーを行う等、法人や自施設を知っていただく良い機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養と協働して2ヶ月に1度開催している。活動内容や行事、運営実態、事故報告、ホームでの様子等紹介している。出席者から頂ける貴重な意見は、施設でのサービスの質向上に役立ち、ご家族様の紹介でボランティアに来ていただけたり、セント・ケアシネマズとして映画レクを始めるきっかけとなった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター、揖斐広域連合、区長、民生委員の皆様に参加していただき連絡を密に取るようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をしている方はみえないが、ユニットの玄関が施錠してある為、なぜ扉を閉めることがいけないのかをユニット会議にて話し合い、安全面にも配慮して、入居者様が自宅のように安心して住めるよう玄関の開放にむけて取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、虐待防止の理解につなげている。「もし自分にされたら？」ということを常に考え、常に相手の立場に立ち入居者様のケアに当たるように心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度施設内研修を行っているが、権利擁護についての理解はまだ十分できていない。外部研修や施設内研修をする事で知識を身につけていきたい。また、施設内研修においては外部講師を招き入れる等し、研修内容の充実を図っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様の話を聴くことを第一にし、不安や心配を与えないよう、ゆっくりと時間をかけて説明をすること心掛けている。分からないことがあれば、気軽に聞けるような雰囲気作りにも配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付について事務所に掲示し、事業所の前には意見箱を設置している。職員には、日々の関わりの中で伺ったことを気軽に書き、報告できるように「貴重なご意見報告メモ」を作成している。些細な希望や要望に対しても対応する事でサービスの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議、各委員会を行い、意見交換の場としている。また、管理者も法人での役職会議に参加し意見や助言を聞いている。会議の場だけではなく、日頃から管理者がスタッフに声をかけしやすい雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年初めの自己目標管理シートに自分自身の目標や長所を活かすこと等書き、人事考課の際に面談を行い、評価及び指導、助言を行っている。また人事考課によるキャリアパス制度も導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場の経験年数に合わせ、1回/年外部での研修参加をしている。また、法人内でも年間計画に沿って研修を行い、共に学び、共に成長できる機会の場としている。新人職員にはプリセプターをつけ、安心して働ける体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の合同検討会や系列法人、法人内での全事業所合同検討会に参加している。他施設との情報交換や問題点が話し合える機会となり貴重な時間となっている為、今後も継続的に参加していきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前調査やサービス担当者会議で情報を収集し、本人様にとっての悩み、不安に耳を傾け想いを聞き取るようにしている。表情や態度、想い等から今、どんな支援が必要なのかを見極め、本人様に安心していただけるようなサービスの内容を検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回契約時にご家族様の話をじっくり聴くことで、ご家族様の背景、思い、要望に耳を傾けることを心掛けている。ご家族様と一緒に考え、何事にも誠実な対応をし、信頼関係が深まるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面会時に本人様やご家族様の現状や不安、要望をお聞きした上で本人様、ご家族様双方にとってよりよい支援を考えている。状況に応じて他事業所のサービスも紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る力を大切にし、可能な限り自分の力が発揮できるよう言葉がけや支援、環境づくりに配慮している。～してあげるという目線ではなく、自立支援を基本に一緒に過ごし支えあう「人」としての関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に健康面や生活の様子等、お伝えして情報交換している。面会は本人様とご家族の大切な時間と考えている。また本人様のお誕生日は特別な日と位置づけ、要望をお聞きし、ご家族様との絆を深めて頂けるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様やご家族様からの情報を聞き取り記録へ記入し、情報の共有をしている。また、なじみの方がいつでも面会に来ていただけるように24時間の面会に対応している。また希望に応じて外出の支援やご家族様の施設での宿泊等行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状況や、その時のユニットの雰囲気配慮し、状況に応じて時には1対1の個別ケアも大切にしている。また、役割を持つことやレクリエーション・生活リハビリ等を通し関わりが深まるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養に3名異動、退所の方1名みえたが、お会いした時には声かけし、いつでも気軽に相談できることお伝えしている。法人内の異動においては、ユニット間での交流や施設内行事等で交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、暮らしの希望や意向を、伺ったり、話される言葉の中から感じとることを大切にしている。またサービス担当者会議にはご家族様に出席していただき、その希望や意向をケアプランに反映している。希望者には本人様にも出席していただくようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に、入居前にアセスメントシートの記入を依頼をしている。また入居後も本人様に聞き取り、生活歴やなじみの生活習慣等、暮らしの情報の把握に努めている。また、ご家族様には面会時に情報を得ようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の暮らし方や聞き取りした内容をもとに、24時間シートを作成し、1人1人の生活リズムの把握や、その方の生活での好みや意向、自分でできることや支援が必要なこと等記入し、職員間で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはスタッフが常に意識できるようカルテに綴じてある。サービス担当者会議において、本人様やご家族様の要望をお聞きし、ケアプランを作成している。また、ユニット会議では現状の課題等スタッフの意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。ケアプランは担当者を決め月1回モニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送り、ユニット会議録等で入居者様の情報を共有している。ケアプランに沿って入居者様の生活の中での気づき(表情、言葉、態度等)を記入し、ケアの向上につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じてどう対応していくべきかスタッフ間で話し合っている。決して一人で決めるのではなく、報告、連絡、相談を大切にし他職種とも連携をとりながら色々な方法でチャレンジしていく姿勢を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様からの地域行事へのお誘いやボランティアの方も少しずつ増えてきている。ボランティアの来訪の際には地元の方も多く、入居者様に声をかけてくださり、入居者様の笑顔に繋がっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に応じ対応をしている。入居前のかかりつけ医がある場合は、情報提供をし受診を継続している。また、ホームの協力医療機関()と連携している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、不安な事や状態変化があれば、報告、連絡、相談を出来る協力体制にある。夜間も訪問看護ステーションと連携をとり安心な医療体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族様や、ソーシャルワーカーと連絡を取りながら早期退院を出来る様に情報交換に努めている。退院決定時には、病院関係者、本人様や家族様、施設ケアマネとサービス担当者会議を行い、情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時の際には看取りに関する指針について説明している。重度化や終末期になられた場合はホームとしてできるケアを十分にご家族様や他職種とも話し合い、方針を共有していく。まだ事例としてはないが新人スタッフも多い為、研修や勉強会に参加し看取りについて意識向上や不安解消につなげて行く		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師主催のもと、毎月行われる医療研修に参加し、緊急時の対応方法などを学び、知識や理解を深めている。緊急時マニュアルも作成し落ち着いて対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に準じ年に2回、避難訓練、通報訓練を実施している。災害時の応急処置に関する協定を結び地域との協力体制をとっている。消防署、区長様にも参加していただき協力体制をとっている		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いや表情を汲みとり、目線を合わせて話しかけるように心がけている。居室には暖簾をかけたり、トイレ、浴室には使用しているかどうか分かりやすいように札を作成し配慮に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や消灯の時間、入浴の有無など本人様の思いを大切にしている。また、レクへの参加などは入居者様の希望を確認し、本人様の思いを尊重している。中には遠慮をして希望を言われない方もみえるので、声かけはするが強制はせず、さりげなく見守りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ生活していただいている。強制するのではなく入居者様の意見を尊重し、その日の体調に応じたペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などには鏡の前にて、髪をとかしていただいたり、顔を洗っていただいている。季節の変わり目にはご家族様や職員と一緒に居室内を整理整頓しながら衣類を整えている。外出前などは、お気に入りの服や身だしなみを整えられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えたメニューを提供している。副食は厨房から大皿でリビングまで運ばれ、ご飯とみそ汁はユニットで作っている。お米を研いで頂いたり、みそ汁の味見をして頂いている。片付けは、リハビリを兼ねて食器を洗うことや拭くこと、テーブルを拭く等役割分担し、片づけを一緒に行っている。また、職員も同じメニューやお弁当を同じ食卓で食べながら、コミュニケーションをとっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、栄養バランスを考慮した献立を、その方の体調や好みに合わせて食事提供している。水分量は毎食時、入浴時、10時、15時と提供している。その他、散歩や外出後にも適宜声掛けしている。またその方に好みに合わせてお茶の温度や飲み物の持ち込み等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず、口腔ケアの声かけを行っている。介助が必要な方は職員が仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。必要な方は随時歯科医の診察、衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを使用し、入居者様の排泄パターンをつかむよう心掛けています。また、入居者様の表情や行動に気をつけながら、可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように努めている。中には、排泄介助を拒否される方がみえる為、そういった方は、体調や気分に合わせて声掛けする、職員が交代して声掛けする、二人介助にて介助する等対応しているが無理強いしないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様にはできるだけ薬を使用せずに排便コントロールができるようにと、便秘マッサージや体操、水分摂取、散歩をする等、個々にあった便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に添えるよう入浴時間や順番、声掛けするタイミングを考えている。また、入浴剤を入れ、色や香りで楽しんでいただけるよう入浴しやすい雰囲気作りの環境を整えている。入浴を拒否される方は、毎日声かけし気分の良い時に入らせていただいている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で食事の後は、横になられるなど休息できる時間をその方の希望に合わせて行っている。安心して眠れるように、温度や照明にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は処方箋を見て作用、副作用の理解に努め症状の変化にも注意している。個々の状況に応じて服薬の介助をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方は家事を役割にしている方が多く食器拭きや洗濯たたみを進んで行っている。個々に応じた現有能力を最大限に生かし、楽しく生活を送っていただけるよう支援している。楽しみ作り(クッキング等)は頻度が少なく、課題がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外での外出行事に多くの入居者様が参加できるよう事前に計画を立てている。まだまだ日常的とまでいかないが、喫茶や買い物等少しずつ行っている。また本人様の希望を伺った際、ご家族様へ相談し、ご自宅や家族旅行等、家族の方との外出できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出前にご家族様へ前もってお伝えし、金銭を持参し、入居者様が、自己にて好きな物を選び購入できるよう支援している。また入居者様の状態に合わせて支払い等の自己にて行えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話をかけたいという時は、施設の電話を利用して頂き、電話をかけられる事もある。手紙を書かれる方もおられ、ポストへの投函は職員が代理で行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れる為、お花などを飾ったり、その季節に合った作品を作る等、居心地のよい空間づくりをしている。職員の行動や声の大きさにも配慮し、不快な刺激がない様努めている。また、天窓からさす自然の光もリビング内を明るくし心地よい空間となっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を設けており、1人でゆっくりTVをみたり、気の合う方と過ごしていただいている。また、リビングにソファを設けて、くつろげる場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と話し、自宅で使用していたなじみの家具や写真等を持ち込んでいただいている。中には仏壇をご持参されるなど、好きなものや使い慣れたものがあることで安心して過ごしていただけるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居室・共同スペース・トイレなど必要に応じて使用できるように手すりを備えつけてある。ベット柵は、L字バーにするなど配慮し、入居者様それぞれの身体状況に合わせ対応し、安全面に配慮して支援している。		